

## 長谷川利治先生のご逝去を悼む

2011年11月28日、長谷川利治先生が御逝去されました。享年77歳でした。長谷川先生は半世紀を超える長きにわたり、オペレーションズ・リサーチ、通信工学、道路交通制御などの分野で教育・研究に多大な業績を残されました。また2000, 2001年度本会の会長を務められました。その他IFORS副会長、京都情報大学院大学学長を歴任されました。数多い栄誉の中で本学会関連では、2件のOR実践がINFORMSのフランチ・エーデルマン賞のファイナリストに残ったことが挙げられます。

長谷川先生は通信工学科のご卒業で、1964年にIEEE Transactions on Communication Technologyに掲載された“Digital data dynamic transmission systems”と題する論文は、パケット交換、ATM (Asynchronous Transfer Mode) 方式につながる先駆的なものでありました。その後38歳の若さで京都大学工学部数理工学教室の教授に就任され、同学科、大学院工学研究科応用システム科学専攻、大学院情報学研究科システム科学専攻における25年間に数多くの門下生を輩出されました。この間担任された研究室名称は「論理システム」、「情報通信」、「情報システム」と変遷し、それに符合し研究内容も交換から、ネットワーク、情報システムへと拡大を遂げました。また御自身の修士課程での留学経験を基に、研究成果・研究者の国際的交流の重要性を早くから指摘され、類い希な英語力を生かし、数多くの海外出張をこなし、国外からの研究者・留学生など来訪者を積極的に受け入れ、国際交流を自ら率先されました。

長谷川先生の博識は衆目の一致するところであり、どのような話題であれ、知識に裏付けられた一家言をお持ちでした。ご趣味も幅広く、特にクラシック音楽、カメラの収集、鉄道、航空ネットワークは門下生のよく知るところであり、先生が多忙な日常にもかかわらず趣味を楽しんでおられる姿に惹かれ、教育者・研究者を目指した者は多くいるように思われます。

怒りの感情を決して表に見せず、巢立つ者・留学する者には“Take it easy!”と勇気付けられ、笑顔と丁寧な言葉遣いで人と接せられた人間味溢れる大きな存在であった長谷川先生とのお別れは痛惜の極みであります。(高橋豊)



(京都情報大学院大学御提供)

### 故長谷川利治氏略歴

昭和9年5月23日 生まれ  
昭和32年3月 大阪大学工学部通信工学科卒業  
34年3月 同上大学院工学研究科通信工学専攻修士課程修了  
37年6月 米国ジョーンズ・ホプキンス大学マスターオブサイエンス修得  
38年3月 大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻博士課程単位取得退学  
同年4月 大阪大学工学部通信工学科助手  
40年4月 京都大学工学部数理工学教室助教  
47年12月 同上 教授  
63年4月～平成2年4月 京都大学情報処理教育センター長併任  
平成2年4月～平成8年3月 同上大型計算機センター長併任  
10年3月 京都大学退官 (名誉教授)  
10年4月 南山大学経営学部情報管理学科教授  
12年4月 同大学数理情報学部初代学部長 (～16年3月)  
19年3月 南山大学退職 (名誉教授)  
19年4月 京都情報大学院大学教授  
20年4月 同上学長 (～22年3月)

### OR学会関係

理事 昭和49・50年度  
関西支部長 昭和58・59年度  
評議員 昭和51～平成元年度, 平成4・5, 10・11年度  
副会長 平成元・2年度  
フェロー 平成4年度  
IFORS副会長 平成7～9年度  
会長 平成12・13年度